

令和2年度
(2020年度)

市 政 方 針



《warm heart! ぽくしのこころ》

苦 小 牧 市 長

岩 倉 博 文

令和2年度(2020年度) 市政方針 目次

【1 はじめに】	1	(2)明日を拓く力みなぎる	
(1)市政への想い	1	産業のまち	17
(2)時代認識	2	農水産業の振興	17
(3)まちづくりの姿勢	3	林業の振興	18
(4)公約について	4	中小企業の振興	18
【2 基本政策】	5	商業の振興	18
(1)市民による		工業の振興	19
まちづくりの推進	5	観光の振興	19
(2)健全な行財政運営の推進	6	苫東開発の推進	19
【3 予算編成】	7	(3)学ぶ喜びがあふれる	
【4 重点施策】	8	文化の薫るまち	20
I 持続可能なまちに向けた		教育行政	20
都市機能の強化		苫小牧駒澤大学	20
◆ ごみの減量とリサイクルの推進	8	国際・国内交流の推進	20
◆ 防災体制の充実	9	市民ホールの整備	21
◆ まちなかの活性化	9	(4)自然と環境にやさしいまち	21
II 地域経済をけん引する		自然環境の保全	21
力強い産業の展開		公害の防止と地球環境の保全	21
◆ 企業立地の促進、港湾整備と		生活衛生の充実	22
ポートセールスの推進	10	(5)安全・安心で快適に	
◆ 雇用・労働環境の整備・充実	11	暮らすまち	22
◆ 新千歳空港の拠点形成強化と		居住環境の充実	22
周辺環境対策の推進	12	上下水道の整備・健全な維持管理	22
III 地域で活躍する“ひと”を		道路の整備	23
育むまちの形成		公共交通の充実	23
◆ 地域福祉の推進	13	消防・救急体制の充実	23
◆ 子育て支援の充実	14	交通安全の推進	23
◆ 市民スポーツの推進	15	防犯対策の推進	24
【5 主要施策】	16	消費生活の安定	24
(1)共に支え合い健やかに		【6 むすび】	25
暮らすまち	16		
保健予防対策の充実	16		
医療体制の整備・充実	16		
高齢者福祉の推進	16		
障がい者福祉の推進	17		

令和2年度のまちづくりに挑む、私の所信と施策の概要を申し上げ、市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を賜りますよう、心からお願いいたします。

1 はじめに

(1) 市政への思い

昨年5月の新天皇陛下の即位に伴い、新たな時代が幕を開け、今年が市長就任4期目の折り返しの年となります。私は、これからの時代にふさわしい苦小牧を市民の皆さんとともに創造するため、引き続き一生懸命、市政の舵取りに励むことをお誓い申し上げます。

令和2年度は、苦小牧中央インターチェンジ（仮称）の供用開始や児童相談複合施設の開所など、実現に向けて粘り強く努力を重ねた成果が現れる1年となります。いずれも、市民の皆さんの強い思いが実を結ぶものであり、大変喜ばしい事ではありますが、一方では、今なお本市は多くの課題を抱えており、今後も1つひとつの解決に向けて挑戦し続けなければなりません。

私は、公約の基本スピリットの1つに“挑戦する市政”を掲げています。まちの将来にわたる持続可能性を見据え、これからの時代認識を市民の皆さんと共有しながら、近未来に向けた戦略に果敢にチャレンジしてまいります。

(2) 時代認識

平成から令和へと時は流れ、経済・社会のグローバル化に伴う国際化の進展、AIやIoTに代表される先端技術の導入など、社会情勢の変化のスピードは加速度を増しています。また、急速に進む少子高齢化により、我が国は世界的にも類を見ない超高齢社会を迎えています。

政府は、少子高齢化に真正面から立ち向かう必要があるとして、1人ひとりの個性と多様性が尊重され、それぞれが能力を発揮でき、生きがいを感じることができる一億総活躍社会の実現を目指しており、この方向性は、「苫小牧市男女平等参画都市宣言」に掲げる理念と相通じるものであります。

本市においても、生産年齢人口の減少による人手不足や地域社会の担い手不足が顕在化しており、少子高齢化への対策のほか、人生100年時代を見据え、性別や年齢、障がいの有無、国籍などに関係なく、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会の実現に向けた対応が求められます。

政府が実施する生産性向上への取り組みや子育て支援策、社会保障の基盤強化策などに迅速かつ的確に対応するとともに、本市の独自性を加えた施策に取り組み、将来にわたり活気があふれるまちづくりを進めてまいります。

(3) まちづくりの姿勢

私は、4期目のテーマを「快適都市を目指して ～笑顔あふれるふくしのまちづくり～」とし、目標として「財政基盤のさらなる強化、そして20年先を見据えたまちづくりの実践」を掲げています。

次の時代を担う世代が伸び伸びと育つことができる環境を作り、失敗を恐れずにチャレンジする若者を後押しするとともに、これまでご苦労いただいた世代の皆さんが住み慣れたところで、日々元気に過ごしていただくために、温もりのある仕組みづくりに知恵を絞ってまいります。引き続き、みんなで支えあい、みんなで助けあう、そして、ちょっとした心遣いが響きわたるコミュニティづくりに励み、今年も「warm heart! ♪ふくしのこころ」をまちの隅々まで響かせてまいります。

また、行政費用の抑制と市民サービスの進化を追求する取り組みに力を注ぎつつ、次の時代に向けて新たな行政改革をスタートさせます。1つの実践が複数の効果を生み出す相乗効果を促すことにより、人口減少時代においても安定した市政運営が可能となる財政基盤のさらなる強化につなげてまいります。

4月からは、053(ゼロごみ)大作戦～ステージ5～を展開します。過去4回の053大作戦により、ごみの減量とリサイクルの推進は大きく前進しました。さらなる高みを目指して、“053のまち とまこま

い”にチャレンジします。今回の大作戦は、ごみの減量、リサイクルの推進、まちの環境美化の3つのテーマに原点回帰し、各種事業に取り組んでまいります。

市政最大の課題である人口減少対策に向けては、第2期となる「苫小牧市総合戦略」を策定します。本市は成長戦略としてものづくり産業のさらなる展開、臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開、臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開にチャレンジしており、近年は多くの投資を呼び込み、北海道全体の発展に貢献しています。今後もこの動きを確実に進め、北海道経済を支える産業拠点都市として、未来に向かって挑戦し続けるまちの実現を目指し、人口減少の抑制と地方創生の取り組みを推進してまいります。

(4) 公約について

私は、2年前の市長選挙において市民の皆さんとのお約束として、5つの基本政策と25項目50施策の公約を掲げました。これら全てを4年間のうちに達成できるよう取り組んでおり、6月に取組状況をお示しします。

2 基本政策

次に、市政運営における基本政策について申し上げます。

(1) 市民によるまちづくりの推進

地域活動の促進につきましては、まちづくりの重要なパートナーである町内会との対話を通じて、地域が抱える課題の解決を図るとともに、市民に対し、広く町内会活動への理解を深める取り組みを進めてまいります。また、将来にわたり持続可能な地域づくりを進めるため、町内会同士の連携や交流を図る取り組みを支援してまいります。

市民自治の推進につきましては、市民であることが誇りに思えるまちを築くという理念の下、企業市民や関係団体との連携を深めるとともに、まちかどミーティングをはじめとする広聴事業を通じて、市民と行政との対話を充実させ、多くの声をまちづくりにいかしてまいります。

男女平等参画の推進につきましては、市民会議において、市民、団体、企業と協働するために企画した推進事業を実施するほか、DV被害者等の保護活動を行う民間シェルターの支援を継続し、男女平等参画社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

(2) 健全な行財政運営の推進

行政改革につきましては、現行の「行政改革プラン－NEXT STAGE－」の計画期間がまもなく終了することから、この5年間の取り組みを検証してまいります。

4月からは、新たな計画となる「苫小牧市行政創革プラン」をスタートさせます。行政費用の抑制と市民サービスの進化へのチャレンジを継続しつつ、今後は、時代にマッチした行政のイノベーションが重要との認識の下、行政改革の考え方を一新し、発想の転換による創造改革を推進してまいります。

また、将来にわたって、市民ニーズやさまざまな行政課題に対応するため、「財政基盤安定化計画 Second Stage」に基づき、財政基盤の強化を進め、健全な財政運営に努めてまいります。

3 予算編成

次に、予算編成について申し上げます。

令和2年度は、政策マネジメント予算編成として、政策効果の高い予算を意識して編成しました。

「苫小牧市総合計画第6次基本計画」と「笑顔あふれるふくしのまちづくり」で展開する施策を進めるため、限られた財源の効率的かつ効果的な活用により、政策予算の一般財源は、45億2千万円、早期発注事業として、4億円を計上しました。

当初予算は、一般会計	81,506,000千円
特別会計	32,685,128千円
企業会計	22,157,866千円
合計	136,348,994千円となりました。

各会計の予算案は、議案第10号から第17号であり、関連する議案は、第18号、19号、24号ならびに25号であります。

なお、各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において、ご説明します。

4 重点施策

次に、重点施策について申し上げます

I 持続可能なまちに向けた都市機能の強化

<ごみの減量とリサイクルの推進>

ごみの減量とリサイクルの推進につきましては、まちぐるみの取り組みである大作戦シリーズとして、053大作戦～ステージ5～を実施します。

Refuse（もらわない）、Reduce（減らす）、Reuse（繰り返し使う）、Recycle（再生利用）の4Rの推進により、市民、企業市民、団体の皆さんとともに各種事業を展開し、053Cityの裾野を広げてまいります。

新たな事業として、生ごみの減量に積極的な市民や団体にインセンティブを付与するほか、ボランティア清掃で回収されたごみを再資源化につなげる取り組みを推進してまいります。

さらに、海洋プラスチックごみの問題については、関係機関と連携し、海岸清掃やセミナーを実施してまいります。

また、市民のみなさんが安心して暮らしていけるよう、ふくしのまちづくりにふさわしいごみ収集の在り方について、検討してまいります。

造成中の沼ノ端第2埋立処分場は、工事を継続し、秋頃の供用開始を目指すほか、単独稼働となった沼ノ端クリーンセンターの安定運営に

努めるなど、衛生的な市民生活の実現に取り組んでまいります。

<防災体制の充実>

防災体制の充実につきましては、各種計画の見直しを進め、市民の防災意識の向上を図り、地域防災力を強化することで、火山や地震・津波、近年多発する風水害など、多様な災害への対応力をさらに高めてまいります。

また、防災行政無線のデジタル化に合わせて、屋外スピーカーの設置範囲拡大を図り、迅速かつ効果的な情報伝達のための環境整備を進めることで、災害発生時等における市民の的確な避難行動につなげてまいります。

<まちなかの活性化>

まちなかの活性化につきましては、CAP（まちなか再生総合プロジェクト）プログラムパート4をスタートさせ、まちづくりに携わる団体や将来の担い手である子どもたちなど、多くの意見を取り入れた事業を展開し、まちなかの新たな誇りや愛着の醸成を図り、日常的なにぎわいの創出に取り組んでまいります。

また、3回目となる駅前イルミネーション事業の実施により、駅前のイメージアップを図るとともに、周辺の商店街などとの連携を深め、まちなかのにぎわい創出につなげてまいります。

旧サンプラザビルの対応につきましては、公共的な見地からの権利集約に取り組んでいるところですが、残された土地所有者との訴訟において、市民の皆さんにご心配をおかけしていることは、誠に不本意であります。

今後も司法の場において、本市の正当性を主張していくとともに、1日も早い駅前再生と活性化の実現に努力してまいります。

II 地域経済をけん引する力強い産業の展開

<企業立地の促進、港湾整備とポートセールスの推進>

企業立地の促進につきましては、ダブルポートを有することに加え、苫小牧中央インターチェンジ（仮称）の開設による利便性向上をPRしてまいります。

また、今春竣工が予定されている東港区の温度管理型冷凍冷蔵庫を核として、関係機関・団体とともに、食と物流が一体化した産業基地やフードロジスティクスの形成に取り組んでまいります。

さらに、企業の誘致活動を進める中で、脱炭素化や再生可能エネルギーを活用した環境への配慮、技術革新などによる新たな事業展開に取り組む企業に焦点を当てながら、ニーズに応じた支援に努めてまいります。

苫小牧港につきましては、真古舞地区中央北ふ頭及び商港地区南ふ

頭などの整備を進め、滞船・混雑緩和と複合一貫輸送機能の強化による、物流機能の効率化を図るとともに、生産性及び地域産業の競争力向上に努めてまいります。

また、国際コンテナターミナルにおいては、4基目のガントリークレーン設置に向けた整備を進め、より安定的かつ効率的な荷役体制の確立に努めてまいります。

海外ポートセールスでは、北海道の知名度、苫小牧港の優位性をいかし、今後も成長が見込まれる農水産物の輸出拡大に向け、関係機関と連携して取り組んでまいります。

<雇用・労働環境の整備・充実>

雇用・労働環境の整備・充実につきましては、就職マッチングサイト“とまジョブ”を活用し、若者やUIJターン希望者へ市内企業の魅力発信を強化してまいります。

また、合同就職説明会を札幌市で開催するとともに、民間の合同就職説明会への助成を充実し、企業の採用力向上を図ることに加え、専門家による個別コンサルティングや職場環境改善への助成など、働きやすい職場づくりへの支援を行い、従業員の定着率向上を目指してまいります。

さらに、女性や若者を対象に研修や職場体験を行う就業支援事業を

継続するほか、北海道立苫小牧高等技術専門学院の入校生への技能習得奨励金を創設し、人材育成と雇用の確保に取り組んでまいります。

公共工事の発注者としても、早期発注や着手時期の弾力化等を通じて、受注者の人手不足への対応等に努めてまいります。

<新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進>

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進につきましては、北海道内7空港の民間委託による運営事業が開始され、地域経済の活性化への大きな契機を迎えています。新千歳空港は、北海道のリーディングゲートウェイとして、さらなる航空ネットワークの拡大や広域観光の振興、交通の要衝としての機能強化が期待されており、本市としても、北海道全体の成長に向けて関係自治体や運営事業者等と連携を強化してまいります。

また、24時間運用拡大に伴う、住宅防音対策や地域振興対策を着実に進めてまいります。

さらに、在日米軍再編に伴う千歳基地での日米共同訓練の対応においては、市民の安全確保と生活環境を守るとともに、再編関連訓練移転等交付金を活用し、航路下地域の環境整備や市民生活の利便性向上を図ってまいります。

本市の成長戦略の1つである、臨空ゾーンにおける国際観光リゾー

トの形成は、雇用の創出や地域経済の活性化に大きく寄与するものであり、今後も I R（カジノを含む統合型リゾート）誘致へのチャレンジを継続するとともに、国際リゾート構想の具現化に向けて、市街地の魅力を向上させるためのエリアコンセプトを策定し、交流人口の増加につなげてまいります。

Ⅲ 地域で活躍する”ひと”を育むまちの形成

<地域福祉の推進>

地域福祉の推進につきましては、地域住民が抱える課題が複雑化、多様化していることから、暮らし全体を受け止める相談支援を行ってまいります。

また、ひきこもりやニートなど社会的に孤立している方に対しては、本人だけではなく世帯の課題として捉え、社会とのつながりを回復できるようサポートするほか、生活困窮者に対しては、就労や住居確保の援助を行うなど、それぞれのライフステージの変化に応じた柔軟かつ包括的な支援に引き続き取り組んでまいります。

さらに、地域共生社会の実現に向けて福祉各分野の上位計画となる「第3期苫小牧市地域福祉計画」を策定し、地域における多世代の交流促進や、共に支え合い、助け合える地域づくりを進めてまいります。

子ども家庭総合支援拠点と室蘭児童相談所分室の機能を有する児童

相談複合施設は、令和3年1月の開設を目指して整備を進めており、児童相談の充実に向けて体制の強化を図ってまいります。

<子育て支援の充実>

子育て支援の充実につきましては、「第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、小規模保育施設の整備により、待機児童が発生している3歳未満児の受け皿を拡充するとともに、保育人材の確保及び負担軽減の取り組みを継続してまいります。

公立保育所においては、「苫小牧市新保育所整備計画」に基づき、みその・しみず保育園の統合、ひまわり保育園の民間移譲を進めてまいります。

また、市内全ての児童センターの利用対象者を18歳まで拡大するほか、植苗小学校に新たな放課後児童クラブを開設し、児童の健全育成を支援してまいります。

さらに、ひとり親家庭の支援として、中学生を対象とした学習支援事業を拡充し、子どもの学力向上や居場所づくりを推進してまいります。

子どもを持ちたい夫婦に対しては、これまで実施してきた不妊・不育症治療の助成に加えて、不妊検査費用を助成するコウノトリ検査事業を開始し、不妊原因の発見につなげ、早期に治療を受けられるよう支援してまいります。

<市民スポーツの推進>

市民スポーツの推進につきましては、我が国で半世紀ぶりに夏季オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、全国初のスポーツ都市宣言のまち苫小牧から、東京2020大会を盛り上げてまいります。

6月15日にオリンピックの聖火リレーを市内で開催するとともに、卓球男子日本代表に決定した本市出身の丹羽孝希選手をオール苫小牧で応援してまいります。

8月には、パラリンピックの聖火リレー開催に伴う採火式を実施するほか、パラスポーツ体験会を継続開催し、障がい者スポーツの普及や市民理解を図ってまいります。

また、ナショナルトレーニングセンターに指定されている白鳥王子アイスアリーナの電光掲示板と照明設備を改修し、氷都とまこまいのシンボリック施設の魅力向上に努めてまいります。

さらに、老朽化したスポーツ施設の整備を計画的に実施し、安全で安心して利用できる施設運営を行い、スポーツ合宿誘致や市民の健康づくりに役立て、スポーツによる活気あるまちづくりを推進してまいります。

5 主要施策

次に、総合計画で掲げる5つのまちづくりの目標に沿って、主な施策を申し上げます。

(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

はじめに「共に支え合い健やかに暮らすまち」について申し上げます。

保健予防対策の充実につきましては、4月1日に施行する「苫小牧市受動喫煙防止条例」の周知に努めるとともに、新たに飲食店全面禁煙化補助金を創設し、受動喫煙のない環境づくりを推進してまいります。

また、新たにスタートする「苫小牧市自殺対策行動計画」を推進し、生きることの包括的な支援を行うほか、「第2次苫小牧市健康増進計画」に基づき、がん検診や歯周病検診の受診率向上に取り組み、市民の健康寿命の延伸につなげてまいります。

医療体制の整備・充実につきましては、新たな公立病院改革プラン策定に向けた検討を進め、市立病院の健全経営に努めるとともに、今後も周産期・救急医療など東胆振・日高圏域の中核病院として必要な医療機能を堅持してまいります。

高齢者福祉の推進につきましては、苫小牧版地域包括ケアシステムの深化に向けた取り組みを進めてまいります。特に、医療介護連携センターを

活用し、多職種連携の強化を目的とした研修と、関係機関同士の連携ルールづくりに取り組み、円滑なサービス提供体制を構築してまいります。

また、現在実施している介護職員就業支援事業を拡大し、介護人材の確保を図り、安定したサービスの提供に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、医療的ケア児の短期入所など在宅支援に向けた取り組みを進めるとともに、障害者雇用奨励金事業など企業への支援を継続しながら、障がいのある方の就労支援に取り組んでまいります。

また、福祉トイレカー“とまレット”の活用や“あいサポート運動”、手話の普及促進に努めてまいります。

8月には、本市で初めて“いけまぜ夏フェス2020 in とまこまい”が開催されます。全道各地の障がいのある児童や、その家族が一堂に会する多彩な交流の場であり、当該イベントへの協力を通じて、障がいの有無に関わらず、互いに支え合い、誰もが暮らしやすい地域社会の実現を目指してまいります。

(2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

次に、「明日を拓く力みなぎる産業のまち」について申し上げます。

農水産業の振興につきましては、新規就農の働きかけや、農業の有す

る多面的機能を維持・促進させる地域の共同活動に対する支援を継続してまいります。

また、ホッキ貝やマツカワに代表される魚種豊かな前浜の魅力ある水産物の周知に努め、消費拡大に向けた支援を行ってまいります。

林業の振興につきましては、森林の持つ公益的機能と木材等生産機能を維持するため、市有林を適正に管理するとともに、森林経営の健全化を図ってまいります。

また、10月には皇族殿下のご臨席を賜り、苫東・和みの森において第44回全国育樹祭が開催されます。関連行事を通じて、森林を守り育てる取り組みを進めてまいります。

中小企業の振興につきましては、3月に開設する各種支援策をまとめた中小企業支援ポータルサイト“とまサポ”の周知を行い、中小企業の利便性向上を図るほか、「苫小牧市中小企業振興計画」の三本柱である創業促進、人材確保・育成、販路拡大等の機会創出に努めてまいります。

商業の振興につきましては、とまチョップポイント事業を含めた既存事業の利便性向上に努めてまいります。また、新たに創業促進・商業にぎわい事業として、Wi-Fi設備導入等のICT化、防犯対策、インバウンド受入れのほか、商店街と学校との協働を支援してまいります。

工業の振興につきましては、テクノセンターによる技術指導や技術研修などをより一層充実させ、ものづくりに取り組む企業の技術力向上や高度化、さらには技術者育成を支援してまいります。

また、苫小牧工業高等専門学校と協働で運営する技術相談窓口C-base（シーベース）、（公財）道央産業振興財団や市内金融機関などの産学官金連携を継続するほか、大学等の試験研究機関や先進企業の技術、知見を活用する市内企業を支援し、地域産業の活性化を図ってまいります。

観光の振興につきましては、ウポポイ（民族共生象徴空間）の開設により、多くの方がこの地域を訪れることから、北海道や白老町をはじめ、近隣自治体と連携し、観光誘客に取り組んでまいります。

また、本市とゆかりのあるアニメーション作品等を活用し、まちの知名度向上に努めてまいります。

さらに、SNS等を活用した情報発信の強化や外国人観光客の受入環境整備に引き続き取り組むなど、インバウンドを含む交流人口の増加を図ることで、地域経済の活性化を目指してまいります。

苫東開発の推進につきましては、第3期の「苫小牧東部開発新計画の進め方」に基づき、物流、エネルギー、情報の優位性をいかした産業やプロジェクトの誘致に取り組んでまいります。

特に、道産品の付加価値を高める食関連基地としての展開を図るほ

か、自動走行や再生可能エネルギー関連などの新たな展開も見据え、関係機関と緊密に連携し、関連企業や技術・研究開発拠点の誘致に取り組んでまいります。

(3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

次に、「学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち」について申し上げます。

教育行政につきましては、「苫小牧市教育大綱」の基本方針に基づく「教育行政執行方針」により各種施策を進めてまいります。

苫小牧駒澤大学につきましては、令和3年4月の校名及び学科変更の準備を支援するとともに、引き続き教育資金の補助による学生確保への協力を行うなど、安定した運営に向けて大学側と緊密な連携を図ってまいります。

国際交流の推進につきましては、民間提案制度を活用し、異文化交流事業や在住外国人へのサポート体制を強化し、まちの国際化を進めてまいります。

姉妹・友好都市交流につきましては、ネーピア市と姉妹都市盟約締結40周年を迎えることから、市民訪問団を派遣し、市民間交流を深めてまいります。

また、国内交流につきましては、はちとまネットワークに基づく八戸

市との連携を強化し、フェリー航路を活用した各種事業の深化による相乗効果を図り、両市の発展につなげてまいります。

市民ホールの整備につきましては、民間資本を活用した官民連携手法であるPFIによる事業の実施に向け、実施方針の策定など、必要な準備を進めてまいります。

(4) 自然と環境にやさしいまち

次に、「自然と環境にやさしいまち」について申し上げます。

自然環境の保全につきましては、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターが実施している自然観察会や、いのちの授業などの啓発事業を通じ、自然や生態系に対する市民理解を促進し、人と自然の共生を図ってまいります。

公害の防止と地球環境の保全につきましては、老朽化した大気汚染常時監視測定機器の整備・更新などを計画的に行い、安定的な環境監視に努めてまいります。

また、地球温暖化対策として、住宅用新・省エネルギーシステム補助事業対象機種の見直しや、民間事業者とともに環境保全に関する啓発を行うなど省エネルギーの推進を図ってまいります。

生活衛生の充実につきましては、お墓に対するニーズ調査結果などを参考に霊園の整備に努めるほか、高丘霊葬場の改修を進め、より安定的な施設運営に取り組んでまいります。

(5) 安全・安心で快適に暮らすまち

次に、「安全・安心で快適に暮らすまち」について申し上げます。

居住環境の充実につきましては、市営住宅の建替え及び除却事業を引き続き実施し、管理戸数の適正化をさらに進めるほか、既存住宅の計画的な維持修繕に努めてまいります。

また、「苫小牧市空家等対策計画」に基づく解体補助制度の拡充や、各種団体との連携による利活用の促進を図るとともに、相談会の開催など空き家の適切な管理を促す取り組みを進めてまいります。

さらに、公園が安全・安心で快適に利用できるよう、公園施設の改築・更新と適正な維持管理を行ってまいります。

上下水道の整備・健全な維持管理につきましては、水道施設の耐震化や雨水管整備をはじめとする浸水被害の軽減などの災害対策を着実に進めるほか、経営的な視点から、より効率的な老朽化対策を推進し、持続可能な上下水道サービスの提供に努めてまいります。

また、モンドセレクション2019金賞受賞のとまチョップ水を活

用した「おいしい水のまち苫小牧」のさらなるPRに努めてまいります。

道路の整備につきましては、引き続き、老朽化対策や除雪車運行管理システム活用による除雪作業の効率化など、快適な道路交通の確保を図るとともに、苫小牧中央インターチェンジ（仮称）の1日も早い供用開始に向け、関係機関との連携強化に努めてまいります。

また、道路施設へのネーミングライツは、新たな財源確保や本市と関連のある企業・団体のPRにつながることから、導入に向けた取り組みを進めてまいります。

公共交通の充実につきましては、地域公共交通網形成計画を策定し、持続可能な交通体系を目指してまいります。

また、JR室蘭線・日高線の維持存続に向けて、北海道や沿線自治体など関係者と十分な協議を重ねてまいります。

消防・救急体制の充実につきましては、老朽化した消防車両を更新し、強固な消防体制の維持に努めるとともに、外国人に対応した多言語音声翻訳アプリや、聴覚・言語機能障がい者に対応した119番通報システムを導入し、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。

交通安全の推進につきましては、高齢者ドライバーへの安全運転補助装置の設置に対する助成の検討を進めるほか、未就学児が日常的に

集団で移動する経路などへの交通安全施設の整備を進めるとともに、引き続き関係機関に対し、信号機設置等の要望を行い、交通事故防止に努めてまいります。

防犯対策の推進につきましては、新たな「苫小牧市総合防犯計画」及び「苫小牧市防犯カメラ設置5カ年実施計画」に基づき、公園や通学路を中心に防犯カメラの計画的な拡充を進め、地域における効果的な犯罪抑止力の向上に努めてまいります。

消費生活の安定につきましては、「苫小牧市消費者教育推進計画」に基づき、次の世代への啓発活動をさらに進めるとともに、消費者トラブルに対する情報発信と相談体制の充実に取り組み、消費者意識の向上を図ってまいります。

また、卸売市場法の改正を踏まえ、公設地方卸売市場における取引の公平性を保ちつつ競争力を強化し、安全・安心な生鮮食料品等の安定供給に努めてまいります。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界各地で拡大しており、北海道内においても感染者が発生しています。

本市においては、発生状況等を注視するとともに、各関係機関と密に連携し、迅速で正確な情報提供と適切な感染症対策に努めてまいります。

6 むすび

以上、令和2年度のまちづくりに挑む、私の所信と施策の概要を申し上げます。

私たちの暮らす、郷土とまこまいは「人間環境都市」を理想の都市として、自然との調和・共生を図り、北の産業拠点都市として大きく発展を続けてきた歴史があります。

時代の転換期を迎え、地方創生の深化が求められる今、前例にとらわれず、機を逸することなく挑戦する組織風土こそが、困難な状況を打破し、戦略的な都市経営を実現していけるものと確信しています。

5月には、道内初となる地方版図柄入りナンバープレートの交付が予定されています。I Rを含めた国際リゾート構想の実現へのチャレンジを重ね、活力のあるまちとして、知名度が向上した苫小牧の名が新たな形で、全国に向けて発信されていきます。

市政の舵を取るに当たり、次の世代が明るい未来に向かって、チャレンジすることができる土壌を築き、持続的な発展を目指す強い決意を発信し、令和2年度の歩みを進めてまいります。

市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、市政方針といたします。

 <p>053大作戦 「053のまち とまこまい」</p>	<p>053大作戦～ステージ5～ 4月スタート</p>
 <p>AIR-t Administrative Innovation & Reformation - Tomakomai -</p>	<p>苫小牧市行政創革プラン 4月スタート</p>
 <p>ウポポイ NATIONAL ANTI-MUSEUM and PARK 民族共生象徴空間</p>	<p>ウポポイ（民族共生象徴空間） 4月24日開設 画像提供：公益財団法人アイヌ民族文化財団</p>
	<p>北海道クールロジスティクスプレイス （温度管理型冷凍冷蔵庫） 今春竣工 画像提供：苫小牧埠頭株式会社</p>
 <p>・苫小牧053 と20-20</p>	<p>地方版図柄入りナンバープレート 5月交付開始</p>
 <p>TOKYO 2020</p>	<p>オリンピック聖火リレー 6月15日開催 パラリンピック聖火リレー採火式 8月開催</p>
 <p>いけませ小龍。</p>	<p>いけませ夏フェス 2020 in とまこまい 8月開催 画像提供：NPO法人 障がい児の積極的な活動を支援する会「にわとりクラブ」</p>
	<p>第44回全国育樹祭 10月開催 画像提供：第44回全国育樹祭北海道実行委員会</p>
	<p>苫小牧中央インターチェンジ（仮称） 年内供用開始予定 画像提供：北海道</p>